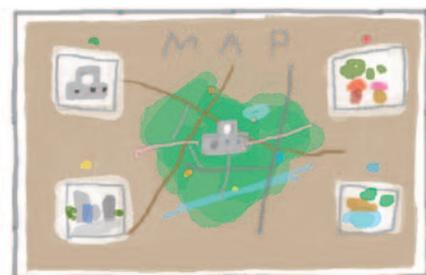


子どもを知って地域で取り組む

防犯ワークショップ マニュアル



子どもを知って地域で取り組む 防犯ワークショップマニュアル 目次

①	防犯ワークショップの概要	
1.1	子どもを知って地域で取り組む防犯ワークショップとは	2
1.2	このマニュアルの内容	3
②	地域ネットワーク図の作成	
2.1	地域ネットワーク図作成の目的	4
2.2	地域ネットワーク図：①エスキス（下書き）	4
2.3	地域ネットワーク図：②情報収集と描き込み	6
2.4	地域ネットワーク図でわかること	7
③	防犯ワークショップの検討素材	
3.1	子どもの危険なできごと状況や日常行動を知る	8
3.2	地域での活動や行政支援を知る	9
④	防犯ワークショップの企画	
4.1	当日の下見と事前準備	10
4.2	参加者への連絡	13
4.3	役割分担と班分け	13
⑤	防犯ワークショップの実施	
5.1	参加者の意見出し	14
5.2	意見やアイデアの整理	15
5.3	次回に向けた準備	15
⑥	おわりに：活動の継続に向けて	
6.1	参加者と主催者	16
6.2	防犯ワークショップの引継ぎ	16
6.3	防犯ワークショップの成果発表と地域ネットワーク構築	16
	付録：防犯ワークショップを活用した取り組み事例	17

※本マニュアルは随時改訂されています。

本マニュアルの最新版は、web ページ「<http://www.skre.jp/>」をご覧ください。

1 防犯ワークショップの概要

1.1 子どもを知って地域で取り組む防犯ワークショップとは

(1) 防犯ワークショップの目的と大まかな手順

この防犯ワークショップの手法は、ワークショップを開催する前に、まず子どもを知る、という事から始まります。子どもを知る方法としては、「危険なできごと調査」や「子どもの日常行動調査」があります。また、子どもを取り巻く環境や、地域、人の関係についても知る必要があります。「地域活動」や「行政の支援」、「子どもの見守りにつながる大人の関係（ネットワーク調査）」等、これらの情報を集めて、総合的に判断して防犯ワークショップを企画・運営することで、効率良く持続的な地域での対策立案や改善活動につながると考えられます。（子どもを知る方法としては、本プロジェクトの「危険なできごと調査マニュアル」・「子どもの日常行動調査マニュアル」をそれぞれ参照してください）



図 1-1 防犯ワークショップに関するマニュアル類

(2) なぜ防犯ワークショップが必要なのか

地域活動を行う場合、その効果が明確であれば活動者の合意も得られやすく、やりがいも感じられるでしょう。しかし、子どもの防犯を目的とした活動では、その効果が犯罪発生率の低減など具体的な数値として表れにくく、活動自体が次第に衰退してしまうという事も少なくありません。そのため、子どもを見守る大人の目が少ない時間や場所が多くなってしまいう問題も出てくるのです。

そこで、防犯ワークショップでは、大人を中心とした「見守りの目」を増やすための方法について、改善案や対策を考えてもらいます。その地域ごとの環境や特性に応じたアイデアを実施することにより、持続的な活動として地域に根づいたものになる事を目指します。

しかし、防犯ワークショップで出たアイデアを地域で合意したからといって、すべてを実施することはできません。事前に調べた情報をもとに、防犯における優先順位と継続性についても考える必要があります。それが、防犯ワークショップを進める上で一番大切なことだと言えます。

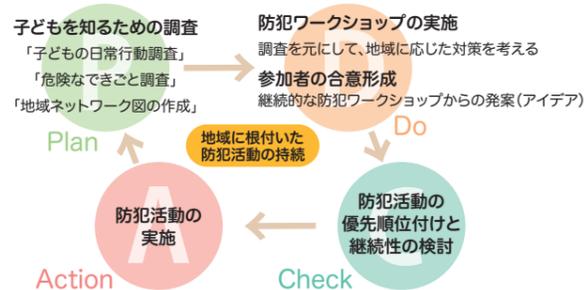


図 1-2 防犯ワークショップの流れ

1.2 このマニュアルの内容

(1) マニュアルの概要

このマニュアルでは、①地域ネットワーク図の作成、②防犯ワークショップの検討、③防犯ワークショップの企画、④防犯ワークショップの実施、⑤活動の継続に向けての5つの手順にそって、具体的な防犯ワークショップの進め方を解説します。

①地域ネットワーク図の作成では、地域で活動する団体や組織の構成を調べ、それらの関係をネットワーク図として整理する方法です。このネットワーク図を活用して、防犯ワークショップを進めることになります。

②防犯ワークショップの検討では、子どもを知り、地域の活動や行政の支援を知る作業について述べます。

③防犯ワークショップの企画では、当日の下見や、参加者への連絡方法などについて述べます。

④防犯ワークショップの実施では、参加者の意見出しの方法や、意見やアイデアの整理方法について述べます。

⑤活動の継続に向けてでは、参加者が主体となって防犯ワークショップを継続していく方法について述べます。

(2) 想定される読み手

本マニュアルが想定する読み手は、「学校関係者、PTA 役員、自治会役員、自治体（行政）担当者、NPO 法人の関係者、大学の研究者、民間のコンサルタント」等の地域で活動している方々で、さらに子どもの被害防止に向けて、防犯ワークショップ手法を活用して、取り組みを進めたい方々です。

(3) 防犯の対象となる子どもの年齢

防犯ワークショップでは、対象とする子どもを、小学生としています。

(4) 防犯ワークショップに要する期間・人数・費用

1 回の防犯ワークショップは半日から1日で可能ですが、事前準備から複数回の防犯ワークショップを行うためには、半年から9ヶ月程度で実施することを想定しています。

また、参加人数は、数名から20名程度を想定しています。防犯ワークショップの費用に関しては、ファシリテーター（専門家）を介在させずに行う場合、会場費用や、印刷費用のみの負担を想定しています。

コラム：防犯ワークショップの注意点

◆個人情報や危険なできごと情報の取扱いについて

防犯ワークショップに参加いただく方の連絡先等の個人情報は、利用方法や管理方法を明確にして、参加者の同意のもと収集しましょう。個人情報が含まれる資料については、保有している媒体（紙・電子データ）の種類、枚数や保管場所について記録して、参加者からの問い合わせ時の対応や、情報の変更及び削除の要望に対応できるように準備しておきましょう。

さらに、検討素材の収集（調査）によって明らかになった子どもの危険なできごと情報についても個人が特定できる情報ではなくても、慎重に管理する必要があります。「情報の管理」については、企画の中心となる個人や団体で、事前に話し合い、管理担当者や管理方針を決めておくといよいでしょう。

例えば、子どもの危険なできごと情報を印刷して、防犯ワークショップで活用する場合は、印刷枚数を決め、印刷物に番号を入れて管理します。また、防犯ワーク

ショップ後は回収して、シュレッダーで粉砕するなど、処理の方法まで決めておくことと明確です。詳細な子どもの危険なできごと情報は印刷資料としては配布しないと決めておくことも方法の一つです。

防犯ワークショップを通じて、子どもの見守りの目を増やす活動につながる事を、地域の皆様や参加者に理解いただき、信頼をしていただかないと、防犯ワークショップを進める事はできません。信頼をしていただくためにも、お預かりした情報を大切に管理する事が重要となります。

※防犯ワークショップの準備中及び実施中に重篤な危険なできごとが明らかになった場合は、関係する団体等で、防犯ワークショップを実施するのも含めて、今後の対応策について慎重に協議する必要があります。



② 地域ネットワーク図の作成

2.1 地域ネットワーク図作成の目的

地域の防犯活動には、なにより人手が必要です。人集めから組織化など、一からはじめるには大変な労力がかかります。しかし、身近な地域に目を向けると、実はさまざまな団体があり、その多くが地域で大切な役割を果たしている事が見えてきます。そして、なかには既に子どもの安全・安心に役立つ防犯活動に力を注いでいる団体もあります。

町会、自治会、子ども会、PTA、老人会、消防団、NPO、任意団体、協議会、行政などそれらの団体を知ることは、参考になることがたくさんあります。地域の活動を知ること、子どもの安全を守る活動がムリ・ムラなく、効率よくできる可能性があります。そのためには、地域ネットワーク図を作成して、地域の活動を見える化しておくことが大切です。

2.2 地域ネットワーク図：①エスキス（下書き）

エスキス（下書き）は、絵を描く時などに行う手法です。いきなり細部まで描き進めるのではなく、全体を捉え、バランス良く配置するなど、その後の作業を効率良く進めるために行う作業です。地域ネットワーク図の作成でも、この手法を活用して進めます。

ステップ1 一緒に作業してくれる仲間（2～4名程度）に呼びかけます。



ステップ2 作業場所と道具を準備します。テーブルごとに世話役を1名決めます。

作業場所：模造紙を広げて作業できるテーブルが必要です。
 道具：模造紙（1～2枚）/ 付箋紙（大7.5cm×7.5cm、小2.5cm×7.5cm）/ サインペン / マジックペン（2～3色）



ステップ3 付箋紙（大）に団体名を1枚につき1つずつ書きだし、模造紙に貼りつけてください。団体は、少しでも関係があると思ったもの全てです。

団体名の下に団体について知っていることをメモしてください。
 はじめに付箋紙を貼る場所は自由です（整理の時に移動させます）。



ステップ4 付箋紙（小）に団体に関わる人の名前を書きだします。

関連する団体の付箋のそばに貼ります。
 ※知っている範囲で構いません
 団体名や人の名前を見るうちに、思い出す団体や人が出てくるかも知れません。連想ゲームのように楽しんで作業してみてください。

※世話役は、付箋には書かれなかった人物に関するエピソードなど要点を別にメモしておきます。



ステップ5 付箋が集まってきたら整理してみます。

関係している、似ている団体や人物を近くに貼り直します。グループとしてまとめられそうなら、マジックペンで囲み線を描きます。
 関係のある団体同士を線で結びつけてください。線の種類や色などを工夫してみてください。

以上で、ネットワーク図エスキスの完成です！

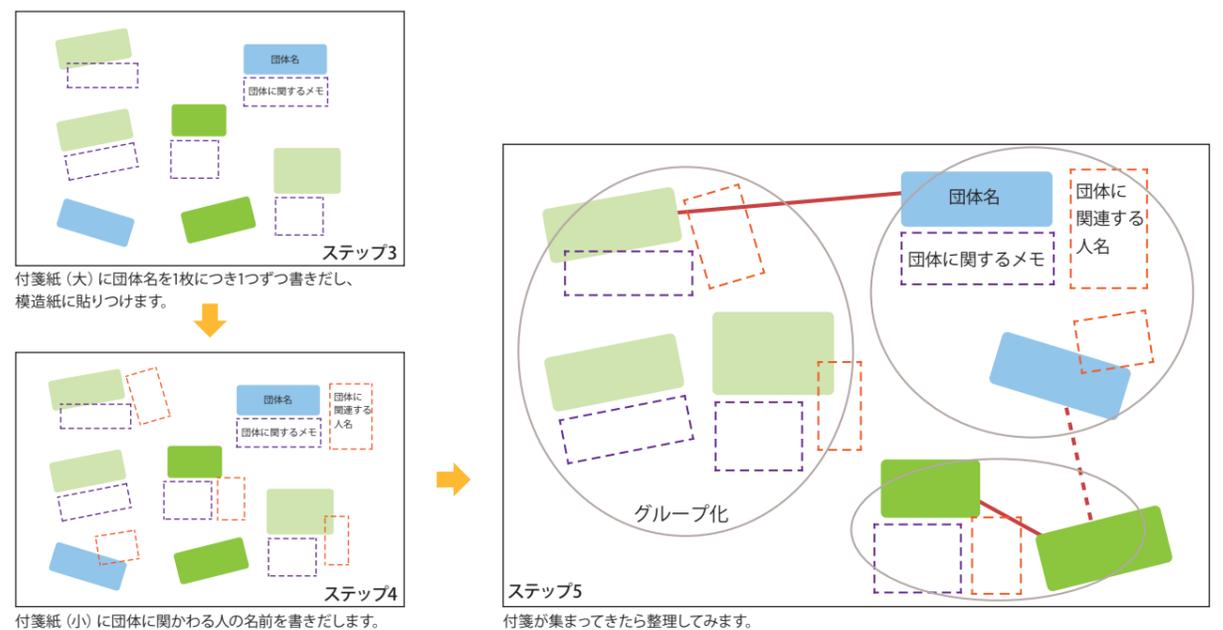


図 2-1 地域ネットワーク図の作業イメージ

2.3 地域ネットワーク図：②情報収集と描き込み

ネットワーク図エスキスは、知っている情報を書きだしグルーピングしたものです。実際に活用できる資料として地域ネットワーク図を作成するためには、正確な情報を収集することが必要となります。

ステップ1 ネットワーク図エスキスをもとに、各団体の情報の整理

団体名やリーダー、連絡先、活動内容など、資料を集めましょう。資料の収集方法としては、インターネットや問い合わせをする事が一般的ですが、直接会って聞いてみる方法（インタビュー）もあります。

ステップ2 関係者へのインタビュー

活動の経緯や、活動内容を直接聞くことが出来ます。活動の資料をいただいたり、コピーさせていただけられるかも知れません。

ステップ3 関係者との関係づくり

活動の苦労話を聞いたり、問題意識を共有する事で、協力し合えることが見つかるかも知れません。他の団体の情報を提供してくれることもあります。問題意識が共有できる団体には、防犯ワークショップへの参加意を確認しておきましょう。

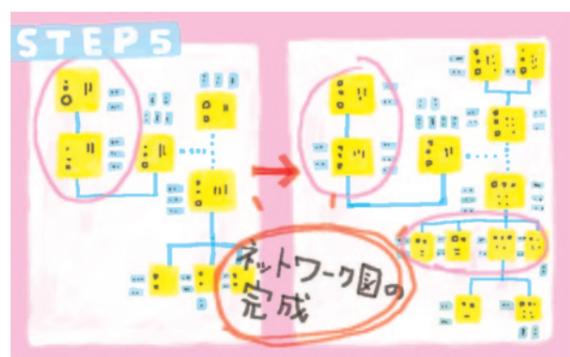
ステップ4 情報の整理

こうして得られた情報や協力関係は防犯ワークショップでも大変役立ちます。後でもわかるようにメモや資料を整理しておきましょう。

団体のリストを作成したり、メモを電子化することで使いやすくなります。案内状の発送などにも役立ちます。

ステップ5 ネットワーク図の完成

ネットワーク図エスキスに新たに得た情報を描き込みネットワーク図を修正してください。新たな発見があるかも知れません。



2.4 地域ネットワーク図でわかること

出来上がったネットワーク図からは、学校関連団体や行政関連団体、自治会、子ども会など、地域を構成する単位となる各種団体の関連性や、関係者の分散と重なり、などの地域ネットワークに関する特徴をとらえることができます。さらに、それらの活

動内容を合わせて整理することにより、人・組織・活動など種々の地域資源のつながりからみた、地域の差異や課題等が明らかになり、防犯ワークショップに向けて有用な情報を得ることができます。

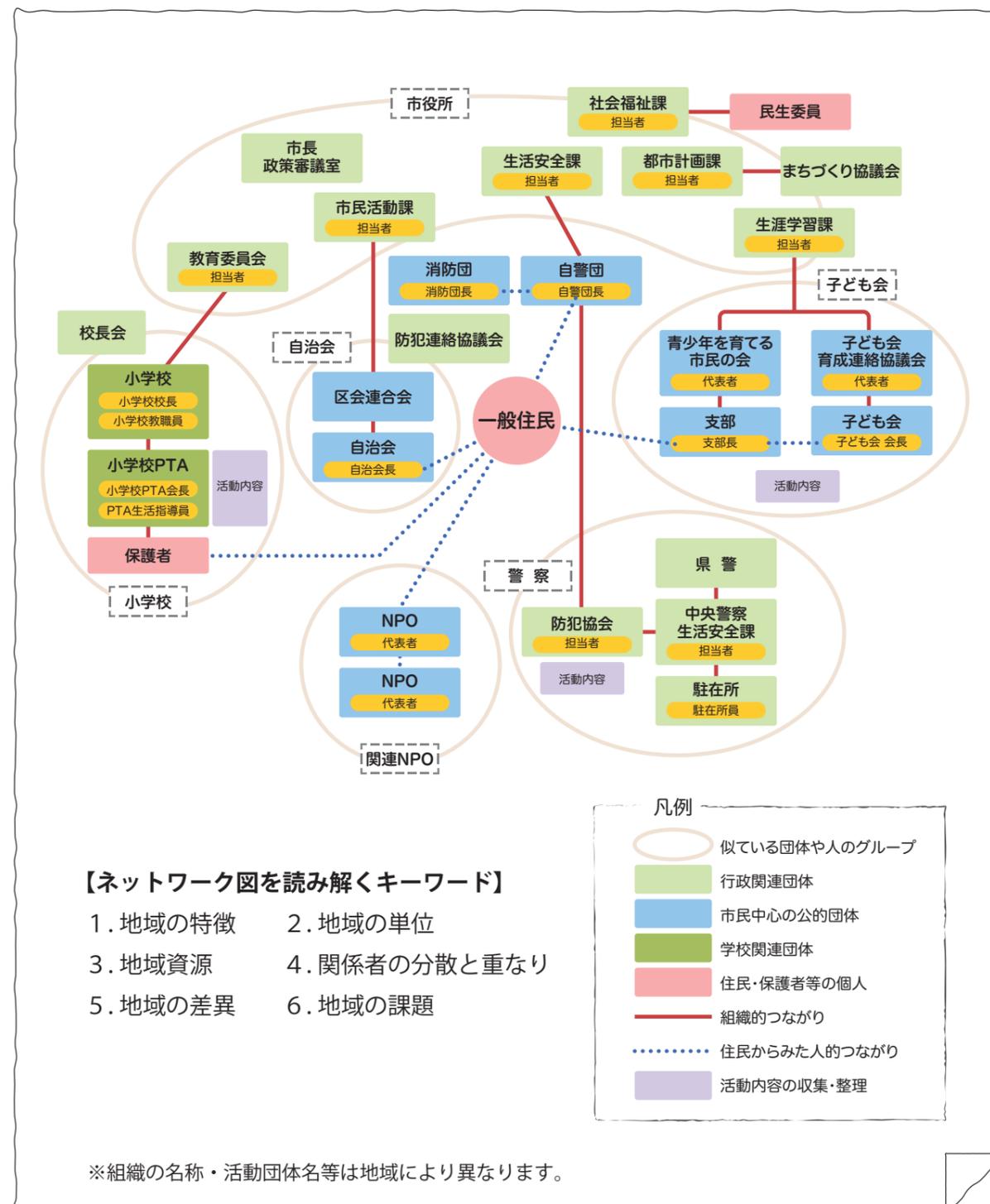


図2-2 地域ネットワーク図の例

③ 防犯ワークショップの検討素材

3.1 子どもが遭遇した危険なできごとや日常行動を知る

(1) 調査結果の活用

子どもを知る方法としては、本プロジェクトの「危険なできごと調査」・「子どもの日常行動調査」があります。「危険なできごと調査」では、子どもが遭遇した危険なできごとや、時間、親の不安な場所などが分かります。「子どもの日常行動調査」では、子どもの日常行動や時間、滞在場所などの傾向がつかめます。これらの調査結果を基に、学校関係者や、PTA 役員、行政担当者の意見を聞く事で、調査結果による傾向と、地域で活動している方々の感覚との違いや、一致する事項が分かります。ここで、感覚との違い、つまりこれまで認識していなかったことが発見できれば、地域活動の優先事項の見直しにも役立てられます。

さらに、通学路の情報や、地域の拠点となる施設及び公園等との関係を場所と時間で整理して検討を行う事で、子どもの見守りのポイントが見えてくる場合があります。

ここでは、子どもの見守りのポイントとして整理することとどめ、防犯ワークショップ時の検討素材とします。



3.2 地域での活動や行政支援を知る

(1) ネットワーク図に基づくヒアリング調査

調査結果の活用では、防犯ワークショップの検討素材を準備しましたが、検討素材について、実際の地域活動として展開する為には、1つの団体だけではできない場合があります。

先に準備したネットワーク図で、重要となる地域での活動者や団体へ協力を要請する必要があります。

これらの活動者や団体にワークショップに参加してもらうために、前述の検討素材を見てもらい、活動に対する意見やアイデアをもらう事が大切となります。

また、そのために必要となるのが行政の支援です。例えば、見守りが必要だと思われる公園の角の花植え活動などを地域活動として立ち上げたい場合など、行政が花植え活動を支援している場合があります。場所と時間を整理して、地域活動をスムーズに立ち上げるための行政支援等を事前に調べておく事で、ワークショップ時のアイデアが現実の活動につながります。ネットワーク図の作成時に行った、関係者の整理は、協力者や支援者を発見する方法とも言えます。



コラム：保護者の思いと防犯活動

保護者は子どもの養育について、防犯だけでなく、「塾に通わせるかどうか」といったものから、「予防接種を受けさせるかどうか」に至るまで、時には命に関わり得るような判断をも、日常的に下しています。そしてその際は、物事のプラス面とマイナス面を考慮して判断がなされています。保護者は犯罪に遭わないというプラス面を考慮して、公園や友達の家子どもたちだけで行くことを禁じたり、「知らない人とは話さないように」と言ったりすることで子どもの行動を規制します。こうした防犯に関する保護者から子どもへの働きかけも、保護者による育児に関する判断のひとつだと考えることができます。

どの程度子どもの行動を規制するかは、それぞれの保護者のその時その時の判断にゆだねられています。ただし、子どもは学校や地域などのコミュニティの中で生活しています。保護者には、自身の子どもに対する判断を、家族単位ではなく、周辺のコミュニティをも視野に入れて考えるよう促す必要があります。例えば、子どもを守ろうと車で

小学校に送り迎えをする保護者が増えたら、結果として車で送迎してもらえない子どもを見守る目は減り、徒歩で通学している子どもの危険が増えてしまう可能性があります。

また、子どもの行動を規制しすぎると、子どもの「遊び」を制限してしまうことが知られていますが、「うちの子は自由に」とあえて防犯に関する働きかけを行っていない保護者の子どもでも、付き添いで来ている別の保護者が公園にいたおかげで犯罪に遭わずに済んでいるのかもしれませんが。

仕事や介護など、保護者が子どもに割ける時間と労力はそれぞれです。地域の防犯活動に参加できない保護者には、参加している保護者に守られている可能性があることを、参加できる保護者には、自分



④ 防犯ワークショップの企画

4.1 当日の下見と事前準備

(1) 会場の下見

ワークショップを行う場合、会場はとても大切になります。限られた時間内での効率良い意見出しや整理・発表につながります。



図 4-1 防犯ワークショップ会場

●会場の検討とポイント

- ①参加者が分かりやすい場所であるか
会場がわかる貼り紙等の誘導があれば親切です。
- ②参加人数と会場の広さはあっているか
数人の参加者で会場が大きすぎる、逆に数十人の参加に小さな会場など、落ち着いて意見が出せる環境にならない場合があります。
- ③机やイスの数は十分にあるか
小学校の教室などを会場とする場合、机の高さにばらつきがあります。同じ高さの机を集め、もとの場所に戻せるようにテープ等で印を付けておきます。
- ④投影機等の機材を活用する場合の電源はあるか
延長コードや、設置する場所を考えておきましょう。
- ⑤プレゼンテーションする方向とイスの配置は良いか
テーブルとイスは、意見出しと発表を意識してセットします。
- ⑥西日の影響で画面が見えづらいなどの支障はないか
カーテンや暗幕がある会場では光を調整でき便利です。

防犯ワークショップに活用する物

ここで紹介する物を準備することで、事前調査や、当日の運営、事後の情報整理を効率的に行うことができます。



資料作成・データの取り込み・当日のプレゼンテーション情報の整理等ができます。



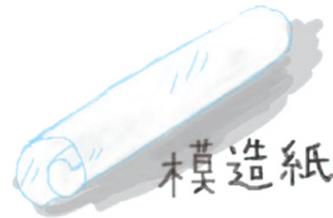
子どもの日常調査・防犯ワークショップの視察調査・危険なできごとがあった場所の視察ルートの設定等が行えます。



防犯ワークショップの記録・危険なできごとがあった場所の視察状況の写真記録ができます。



防犯ワークショップの記録・危険なできごとがあった場所の視察状況の音声記録ができます。



防犯ワークショップの意見をまとめたり、付箋をはったりする作業のベースになる大きな白い紙です。



防犯ワークショップ当日のプレゼンテーション情報の共有等ができます。

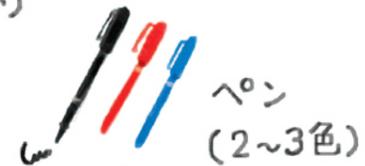


ノートパソコンや、プロジェクターの活用時に、会場の電源「コンセント」位置によって必要な場合があります。



意見や、アイデアを書き込み、模造紙に貼り込みます。要件に合わせてグルーピングするなど、貼り直しが可能です。

模造紙にまとめた内容を発表する時に、前に貼り出す時に活用できます。



子どもの危険なできごとがあった場所の確認など、外部でメモを記入する場合や、地図を持ち歩く時に活用できます。



防犯腕章



子どもの危険なできごとがあった場所の確認や、事前の地域調査時に着用、下見中も防犯パトロールとして地域の方が認識出来ます。



危険なできごとがあった場所のマークや視察ルートの記入、情報の分析、情報の記録など多目的な場面での活用が想定できます。紙媒体や電子媒体での地図があると便利です。

(2) 視察ルートの下見

子どもが遭遇した危険なできごとや日常行動を基に、ワークショップ会場から一筆描きになるように視察ルートを検討します。下見を行う事で、地域の活動を発見することもあるので、視察ルートは複数検討して、時間ごとに数回行くと理想的です。

現場でネットワーク図上の活動者と出会うこともあります。その場で、子どもの見守り活動について理解してもらうことができるので、ネットワーク図が、実際のネットワークになることもあります。

また、視察を通じて、調査データを実感する事ができます。よく子どもが集まる人気のある公園と、人気の無い公園とでは何が違うのかなど、考える機会にもなります。



図 4-2 視察ルート (子どもが危険なできごとに遭遇した地点 MAP) イメージ

●視察時のポイント

①腕章や防犯ジャケットを着て視察する

視察も立派なパトロールです。

②視察時に写真を撮る

ワークショップの当日が雨になる事もあるので、写真を準備しておきます。

③移動時間を記録する

当日の運営では時間を管理することが大切です。下見の時に移動時間を記録しておきましょう。

④参加者が事故に合わない様に配慮(点検)をしておく

当日のルートに工事などの予定場所は含まれないか、交通事故の危険箇所は無いかなど、確認をしておく。

⑤バスなどを活用する場合の待機場所の確認

視察範囲が広い場合、車やシャトルバスを活用する場合があります。危険なできごと地点で降りて、視察後に乗車する場所を決めておきましょう。交通に支障が出ないように必要な場合には、駐車場を用意することも大切です。

-  あとをつけられた(こわいことをいわれた)
-  いやらしいことをされた(されそうになった)
-  たたかれた(されそうになった)

4.2 参加者への連絡

(1) 関係主体への趣旨説明

関係主体への連絡を行う場合は、団体を統括する長から順番に行いましょう。連絡がスムーズに行えることや、開催日時が他の行事やイベントと重なっていないかの確認にもなります。防犯ワークショップの趣旨を理解して協力してもらう事で、心強いパートナーにもなります。さらに、当日参加していただければ多くの活動内容について情報交換が可能となります。

※防犯ワークショップの開催趣旨の説明文、日時、場所、当日のプログラム案を準備して、予約(アポイントメント)を取ってから挨拶に行きましょう。

(2) 参加者の選定と案内文の発送

参加者の選定では、ネットワーク図が重宝します。防犯ワークショップに関係が深い団体から順に声掛け(案内)をします。日時の設定によって参加できない個人や団体が多い場合は、日時の設定から見直す柔軟さも大切です。

地域のニーズに合わせて、柔軟に対応する事で、一人のキーマンから、複数の個人や団体へ呼びかけをしてもらえるなどの協力が得られることがあります。



図 4-3 協力者への説明の様子

4.3 役割分担と班分け

参加者が確定したら、当日の班分けを行います。1つの班は4～5名程度で、各班に世話役を定めま。世話役をお願いする人には事前に当日の運営方法の説明を行い、視察ルートの下見にも同行してもらえると理想的です。世話役を引き受けてくださる方は、今後の活動の担い手としても有力となります。

各班分けでは、活動地域や、活動する団体の異なる参加者が交流できるように配慮してください。班の中での情報交流を通じて、ネットワークを強化する目的があります。



●世話役の役割

- ①防犯ワークショップの開催日までの準備に参加して当日のプログラムを把握する
- ②当日の設営と運営をサポートする
会場の誘導案内を貼る、机の設営を手伝う、作業備品を配布する、各班での司会進行を行う、メモをとる、各班の意見を整理する、班の発表者を選ぶ。
- ③視察では、子どもの危険なできごと地点ごとに班になって集まり、危険なできごとの内容を読み上げる
ICレコーダー・デジタルカメラで記録をとる。
- ④会場の片づけと、アイデアの整理を分担する
- ⑤次回の防犯ワークショップに向けて準備会に参加する

5 防犯ワークショップの実施

5.1 参加者の意見出し

(1) 情報提供

防犯ワークショップの会場に集まった方へ趣旨説明や当日のプログラムについての説明を行い、「危険なできごと調査」や「子どもの日常行動調査」からわかった事について、実際に子どもが危険なできごとに出会った場所の視察を行います。

●視察の流れ

- ①事前¹に世話役を中心とした班に分かれて現場視察を行う
視察ルートが分かる地図を用意する。危険なできごとの内容は世話役のみに渡し、ワークショップが終了したら回収する。
- ②子どもが危険なできごとに出会った地点に到着したら、世話役は班のメンバーが集まったところで危険なできごとの内容や状況を読み上げる
参加者は、現場の状況を確認して地点番号が分かるメモに感想を記入する。その場の情報交換の内容をICレコーダーで録音する。
- ③参加者のメモへの記入が完了したら、各班の世話役は次の地点に移動する
- ④予定されたルートの視察が終わったら、会場に集合する

- ⑤会場では、各班に地図（危険なできごとと地点と周辺の写真）を用意しておき、視察中のメモを活用しながら、参加者の感想をまとめる
ネットワーク図のエスキス作成と同じ要領で、付箋に感想を書き、地図の地点に貼り付ける。同じ様な内容は、大きな付箋にタイトルを付けて集約化する。
- ⑥各班での感想や気付いたことをまとめ、班ごとに発表する
- ⑦紙でできた発表資料は、世話役が分担してデジタル化する
文字の入力やデジタルカメラでの撮影、ICレコーダーを聞き直して、ポイントとなる発言を文字にする。
例：この道は通学路ですか？・・・
この場所はだれが管理しているのですか？
※これらの整理を行い、次回の防犯ワークショップのはじめに情報提供の資料として活用する。

(2) アイスブレイク

ワークショップで一番問題となるのが、だれからも意見やアイデアが出ないことです。

参加者が氷のように固まってしまうことです。世話役が一人で話をしても仕方ありません。

そこで、参加者が気がねなく話をはじめることができる状況をつくるのが大切です。このことをア

イスブレイクと言います。特に、子どもが危険なできごとに出会った状況などを基にした、防犯ワークショップでは、テーマとして発言が難しい内容だと考えられがちです。

本プロジェクトでは、子どもに関する調査情報だけでなく、地域の活動や支援の情報を参加者に提供

することで、アイスブレイクとして活用しています。

地域の活動や支援の情報は、必ずしも子どもの防犯活動だけでなく良いです。

(3) 防犯ワークショップでのアイデア出しについて

防犯ワークショップに参加してくれる方への情報提供の方法によって、出てくるアイデアも違ってきます。日常の活動とかけ離れたアイデアや、他人任せのアイデアが出ない様に、「3つのステップ」で意見やアイデアを出してもらいます。

①では、地域活動の情報交換ができます。意外と隣の町内会の活動などで良い活動がなされていても、知らないことが多い事に気が付きます。また、共通の知人の名前が出てきたりすることで、防犯ワークショップで知り合った人と友達になるなど、小さなネットワークが生まれることもあります。

②では、実際の活動に対する改善案なので、子どもと町内会が同じ様な活動をしているなど、協力することで、効率が良くなる活動を見つけることができます。

効率が良くなることに加えて、子どもと大人や、

違う活動団体が協力する事で、顔見知りが増え、ネットワークがつながり、子どもの見守りの環境がよくなる効果も期待できます。

③上記①、②から更なるアイデアを出そうとする、突飛なアイデアではなく、現実的な問題の改善に向けたアイデアが出やすくなります。

日頃気になっていても、自分だけではできず諦めていた事を、皆で問題を共有し様々な活動の延長線で考えることによって、実現可能なアイデアの提案につなげることができます。

参加したことがある、または、知っている

① 地域活動で、子どもの防犯や見守りに役立つと思う活動について

② ①で上げた活動の改善方法について
例：○○○のようにすれば効率が良くなる。
AとBの活動をつなげると良くなるなど

その他、子どもの防犯や見守りに役立つと思う活動についてのアイデアを出してください。

5.2 意見やアイデアの整理

防犯ワークショップの開催時間は2～3時間になることが多いです。午前中なら10:00～12:00、午後では、13:00～15:00が目安です。

限られた時間の中で行うため、事前準備と開催後の情報の整理が大切となります。紙媒体への記録は短時間で情報を共有する面では良いですが、情報の整理という面ではデジタル化することで効率が良くなります。

また、防犯ワークショップの限られた時間内では整理しきれなかった内容を、数人の世話役で再度検討する事で整理できる場合もあります。

5.3 次回に向けた準備

防犯ワークショップの回が終わる時には、必ず次回の日時についてのアナウンスを行い、次へつながるように準備しておきましょう。

世話役による整理の時間を確保して、参加者の年間行事を考慮して計画的に予定を組む事が大切です。

特に、年度をまたぐ場合などは、参加者が全体的に入れかわり、ネットワーク図の更新から始める事になる場合があるので注意しましょう。

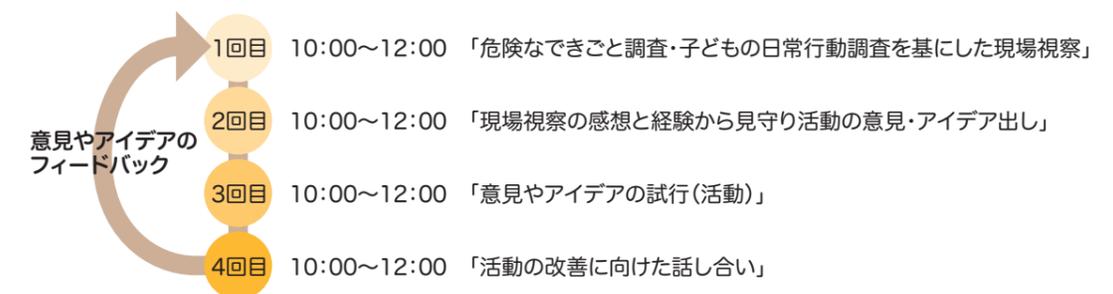


図5-1 防犯ワークショップ：プログラム案

⑥ おわりに: 活動の継続に向けて

6.1 参加者と主催者

防犯ワークショップを主催する場合、参加者に役割を持ってもらうことを意識しましょう。参加者に一番の理解者となってもらい、日常的に地域での活動パートナーとして、協力しあう関係を構築することで、自然と子どもの見守りの目が多くなると考えます。参加者と主催者の関係で終わるのではなく、世話役とお世話してもらう役があり、たまたま今回は、世話役を買って出ているような、持ちつ持たれつで、防犯ワークショップを捉えて行くことが大切です。

6.2 防犯ワークショップの引継ぎ

年度ごとに人の移動や、参加者の入れかわりがあるので、活動の引継ぎを意識して始める必要があります。例えば、PTA 役員で防犯ワークショップを行う場合など、役員組織構成を1年ごとに全て入れかわるよりも、半数交代にするなど、情報が引き継げる工夫が必要です。ある小学校では、PTA 副会長が翌年のPTA 会長を引き受けるルールがあります。防犯ワークショップの引継ぎは、人から人への引継ぎとも言えます。

6.3 防犯ワークショップの成果発表と地域ネットワーク構築

子どもは、小学校区の中だけで活動しているわけではないので、隣接する地域との連携が大切となります。それぞれの小学校区や自治会単位で努力している活動を、隣の小学校区や隣接する自治会等と共有する事が必要となります。

地域での活動内容について情報交換を目的とした発表の場を設定することで、大きなネットワークを構築することになります。これら、防犯ワークショップの成果発表がとても大切です。行政との協働も視野に入れた活動を行うことで、子どもの見守りの目を増やす地域での継続的な活動につながることを想定しています。



図 6-1 防犯ワークショップ成果発表の様子

防犯ワークショップを活用した取り組み事例

地域の人々が力を合わせて実施する「子どもの防犯」活動について、地域の特性に応じたさまざまなアイデアがあります。

ここでは、実際に防犯ワークショップを活用した取り組みについて紹介します。

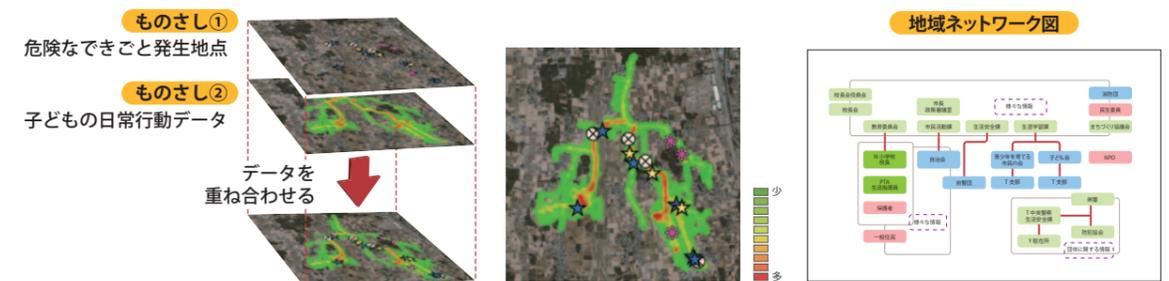
親子登校活動 (PTA + 研究者)

ある小学校では、親子で通学路を点検する「親子登校」と呼ばれる活動が実施されています。この活動は、事前の調査(「危険なできごと調査」・「子どもの日常行動調査」)により、子どもの危険なできごとが、通学路に集中していることが確認できました。

この調査結果をもとに開催された防犯ワークショップによって、参加者から出たアイデアの一つ「親子登校」を、PTA が主体となって実施する事になりました。「親子登校」は、子どもの通学路の状況を親が子どもと一緒に確認する事を目的としています。

主とする目的以外にも、学校行事の際に発生する駐車場不足の問題への対策や、歩くことによる親の健康増進など、複合的な効果が期待できる活動として、実施されています。

①子どもたちの状況を知るための事前調査 (検討素材)



②防犯ワークショップの実施



検討素材より子どもの危険なできごと状況の提供



危険なできごとのあった場所の確認



参加者によるアイデアの発表

③PTA主体による親子登校の実施



「親子登校」通学路の点検



「親子登校」により確認された不安な場所の集計作業



課題の共有と改善のアイデア出し



参加者が記入したMAPの情報を大きなMAPに集める



■本マニュアルに関する問い合わせ先

.....

本マニュアルは、平成 19 年度～平成 23 年度にかけて行われた、独立行政法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発センターの研究プロジェクト「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」（研究代表：原田豊（科学警察研究所））の研究成果に基づいて執筆されたものです。

本マニュアルに基づいて防犯ワークショップを実施される際には、下記の連絡先までご一報いただけますと幸いです。

株式会社 プレイスメイキング研究所

〒305-0824 茨城県つくば市葛城根崎 1 番地 電話 :029-856-1882

科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-3-1 電話 :04-7135-8001(内線 2641)

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」公式サイト

<http://www.skre.jp/>

本マニュアルを活用した防犯ワークショップの結果を論文等で公表する際には、下記の出典を明示してください。
株式会社プレイスメイキング研究所（2011）「子どもを知って地域で取り組む防犯ワークショップマニュアル」、
〈<http://www.skre.jp/>〉、17p.